



# 2025年1月期 第2四半期 決算説明資料

**ベステラ株式会社**  
東証プライム(証券コード:1433)

# 決算のポイント

## 売上高

**5,767** 百万円

- ・ 組織体制の強化により大型工事が順調に進捗し、会計期間、累計期間ともに過去最高売上を達成
- ・ 売上高は、対前年2,438百万円（73.3%）増

## 営業利益

**211** 百万円

- ・ 第2四半期会計期間から不採算工事清算の影響が大幅に減少したことにより、営業利益は対前年272百万円増（黒字転換）のV字回復

## 受注残高

**6,174** 百万円

- ・ 前期受注の長期大型工事が順調に進捗しつつ新規顧客を開拓、電力業界で大型工事を受注する等、引き合いの状況は業界を問わず良好に推移

## 業績予想（上方修正）

- ・ 中間期は順調な工事進捗により大幅増益で着地
- ・ 通期予想は株式売却益等を反映し、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益を上方修正

## トピックス

- ・ 海外プラント解体市場への進出について
- ・ 脱炭素解体への取り組み
- ・ CADアドオンソフトについて

## 中間期業績予想(6/7発表)と実績値との差異について(9/5上方修正発表済)

2025年1月期中間期の業績について、売上高、各段階利益ともに、6/7に発表した予想を上回って着地することとなり、9/5付で上方修正を発表いたしました。これは、積極的な採用活動の成果により施工体制の強化が図られ、工事が順調に進捗したことや、第2四半期会計期間から不採算工事の影響が大幅に減少した結果、利益が大きく上振れたことによるものであります。

単位: 百万円

2025年1月期 業績予想と実績値の差異				
中間期				
	実績	業績予想 (6/7発表)	増減額	増減率
売上高	5,767	5,500	267	4.9%
営業利益	211	100	111	111.0%
経常利益	258	150	108	72.0%
親会社株主に 帰属する 中間純利益	127	100	27	27.2%
1株当たり 中間純利益	14.36円	11.29円	—	—

# 通期業績予想の上方修正

2025年1月期の通期業績予想について、9/5付で再度上方修正を発表いたしました。これは、第3四半期会計期間で計上する株式売却益等を、経常利益・当期純利益に反映させたものであります。売上高・営業利益につきましては、工事の進捗率等の不確定要素を鑑み、前回発表予想通りとしております。

単位: 百万円

2025年1月期 業績予想				
通期				
	修正後	前回発表(6/7)	増減額	増減率
売上高	11,000	11,000	—	—
営業利益	500	500	—	—
経常利益	650	600	50	8.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	480	400	80	20.0%
1株当たり 配当金	20円	20円	—	—
配当性向	36.9%	44.3%	—	—

# 損益計算書：第2四半期（2025年1月期）

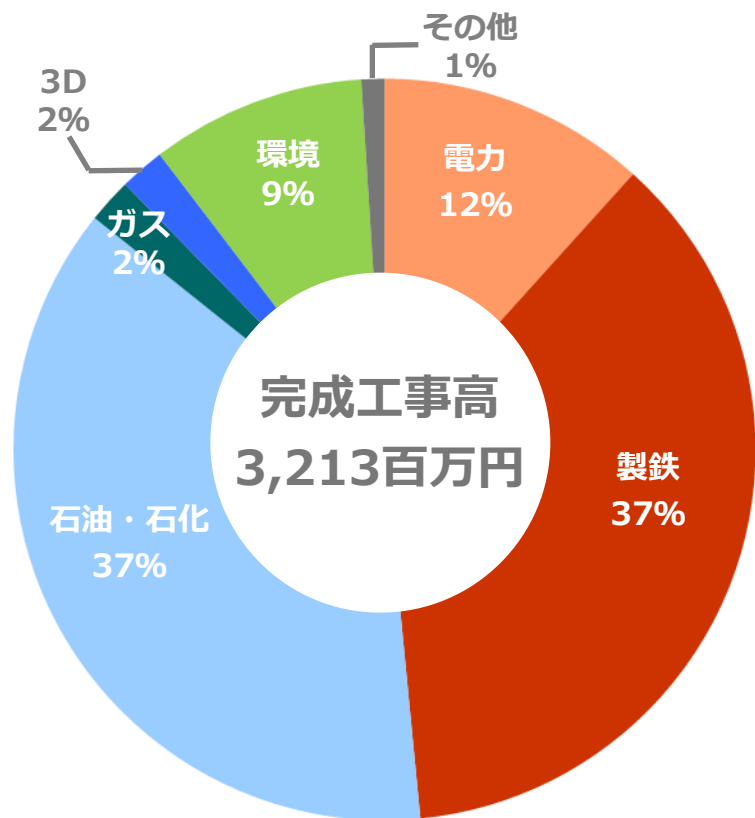
売上高は、新規顧客の獲得、既存工事の順調な進捗により、前年同期比73.3%の増収となりました。営業利益は、第1四半期で計上した一過性の工事損失や、将来に向けての積極的な研究開発投資などによる販管費の増加を吸収し、前年同期比272百万の増益となっております。

単位：百万円

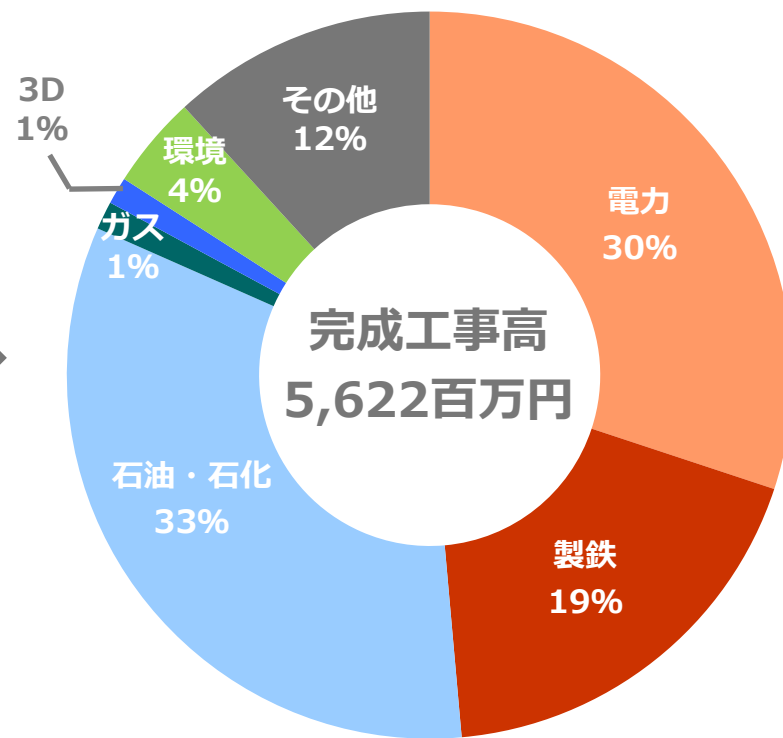
	2025年1月期 第2四半期	対売上高 比率	前年同期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率
売上高	<b>過去最高</b> 5,767	—	3,328	2,438	73.3%
(うち完成工事高)	(5,622)	—	(3,213)	(2,408)	(75.0%)
売上総利益	960	16.7%	470	490	104.2%
販売費及び 一般管理費	749	13.0%	531	217	40.9%
営業利益	211	3.7%	▲61	272	—
経常利益	258	4.5%	▲9	268	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	127	2.2%	▲28	155	—

# 業界別 完成工事高構成比率

2025年1月期は、発電所・変電所等の解体工事が大きく進捗した影響もあり、電力分野の構成比率が高くなっております。電力、石油・石化分野で大型元請工事が順調に進捗しており、完成工事高は電力、製鉄、石油・石化各分野でバランスよく構成されております。



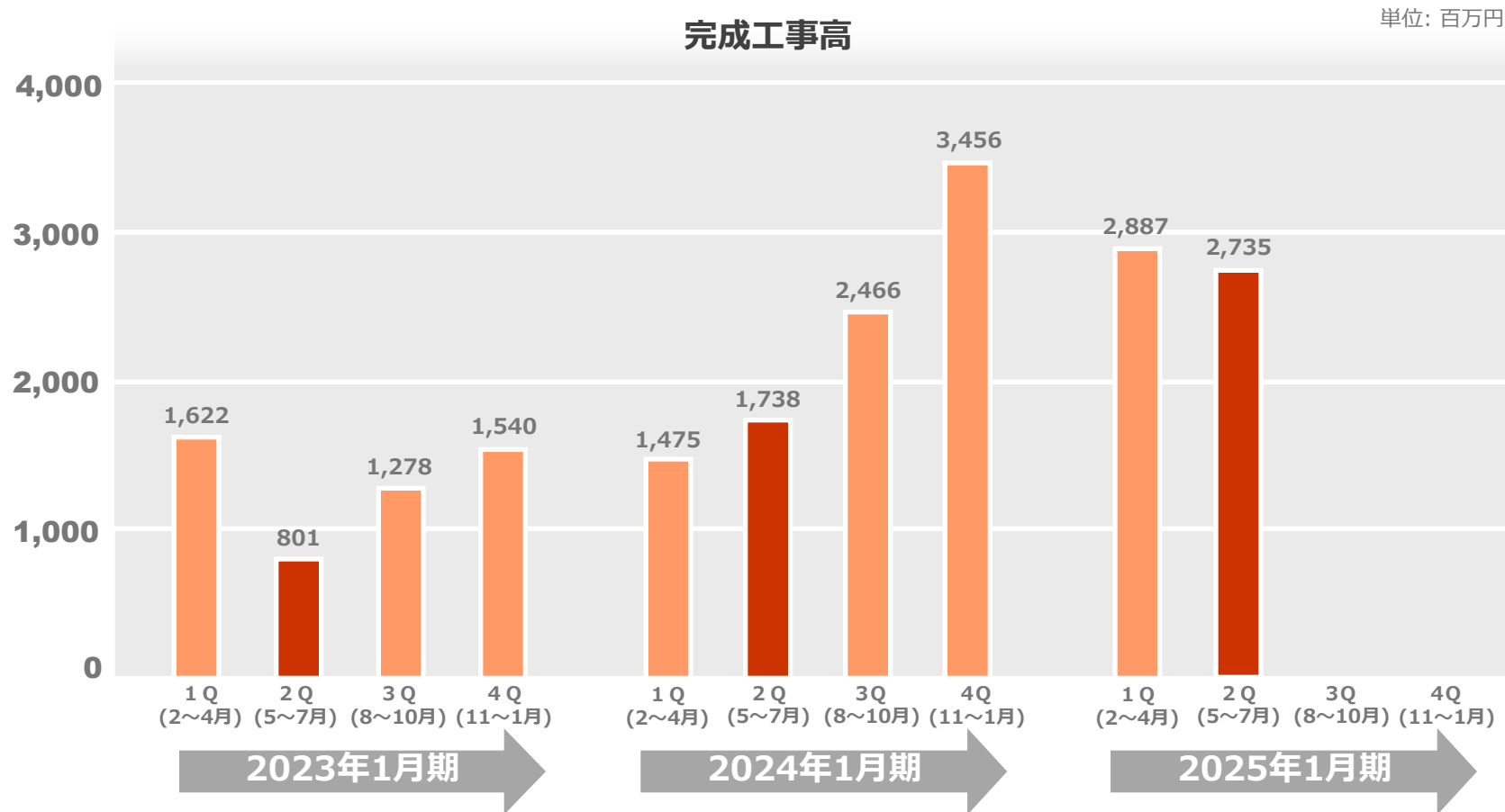
2024年1月期（第2四半期）



2025年1月期（第2四半期）

# 完成工事高の推移について

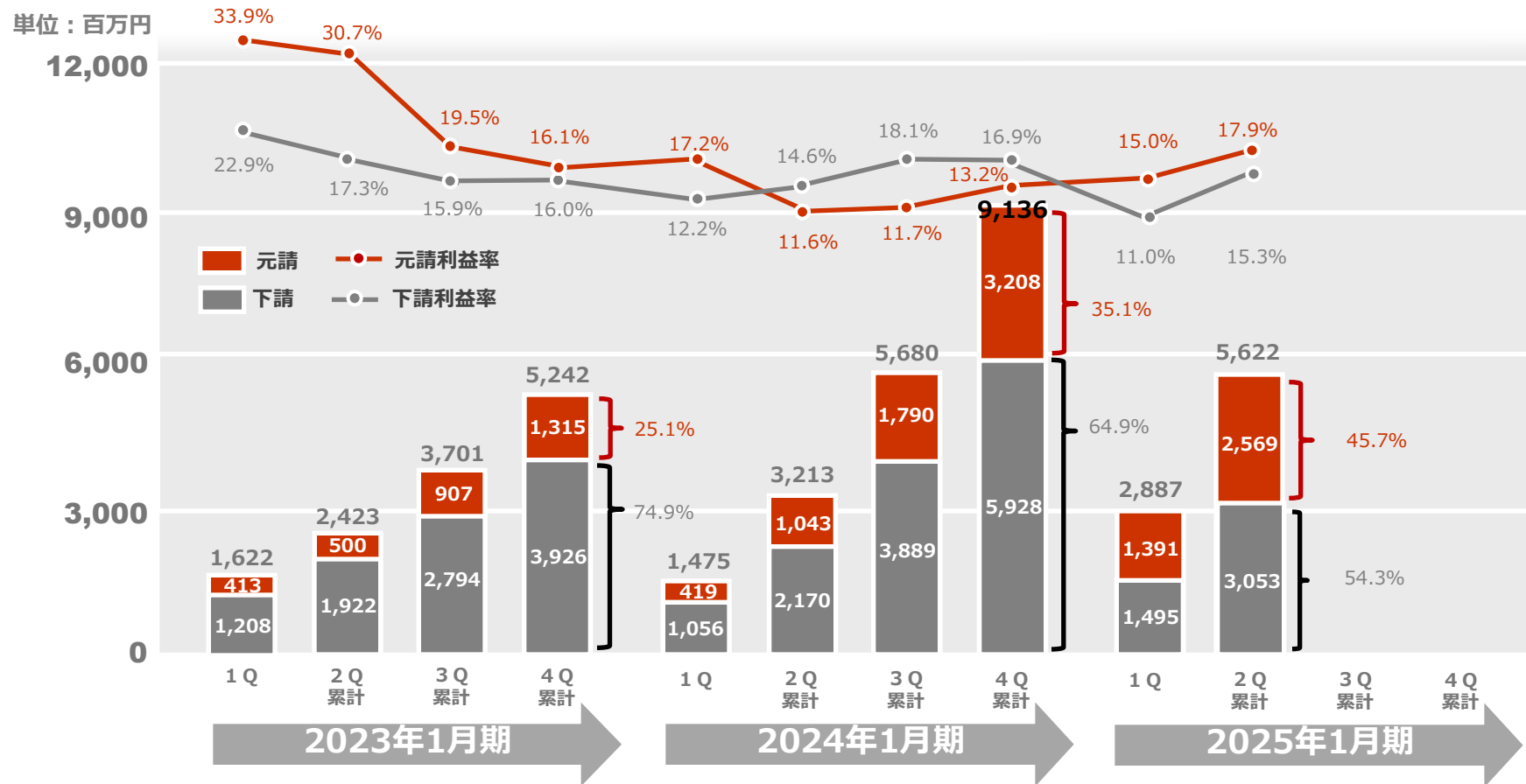
第2四半期会計期間は、例年、完成工事高が少ない傾向にあります。当四半期会計期間の完成工事高は、季節性要因の影響を受けながらも、第1四半期会計期間と同規模の水準で推移しております。今期も例年と同じく第4四半期に完成工事高の増加を予定しております。



# 完成工事高に占める元請案件の推移

積極的な新規営業活動により、元請割合の増加傾向は継続しております。（当四半期は45.7%）  
 利益率も、不採算工事の清算、スクラップの売却益や追加工事の獲得により回復傾向にあります。

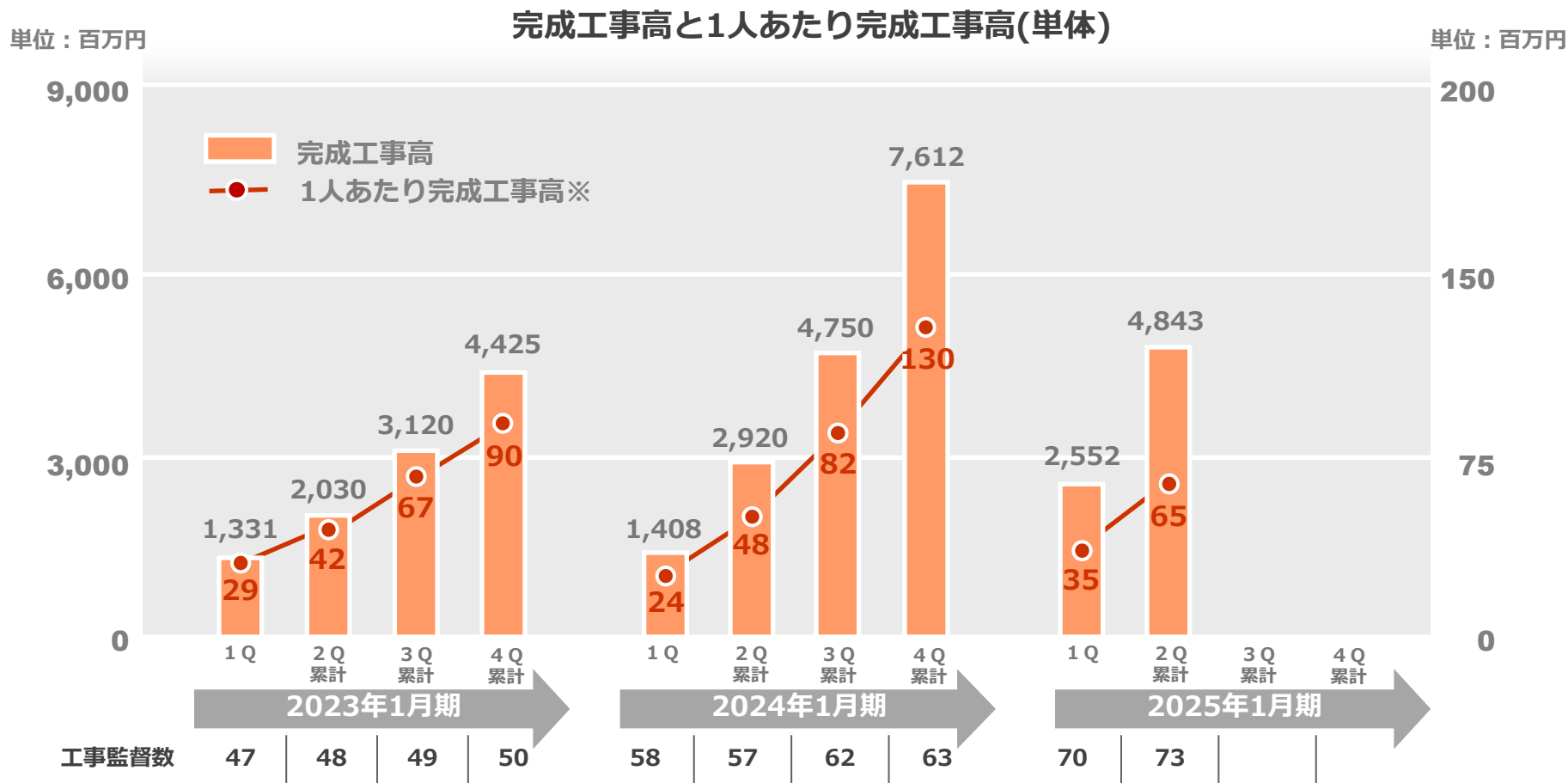
## 完成工事高と売上総利益率





# 1人あたり完成工事高（単体）の推移について

採用は順調に進んでおり、また、好調な受注により工事監督者1人あたりの完成工事高は増加傾向にあります。今後の受注増に対応した、安全に配慮されたゆとりある施工ができる現場体制を確保するため、引き続き採用活動を強化いたします。



※総労働時間から算出した想定稼働人数で計算しているため、実際の工事監督数とは異なる場合があります。

# 販売費及び一般管理費：第2四半期（2025年1月期）

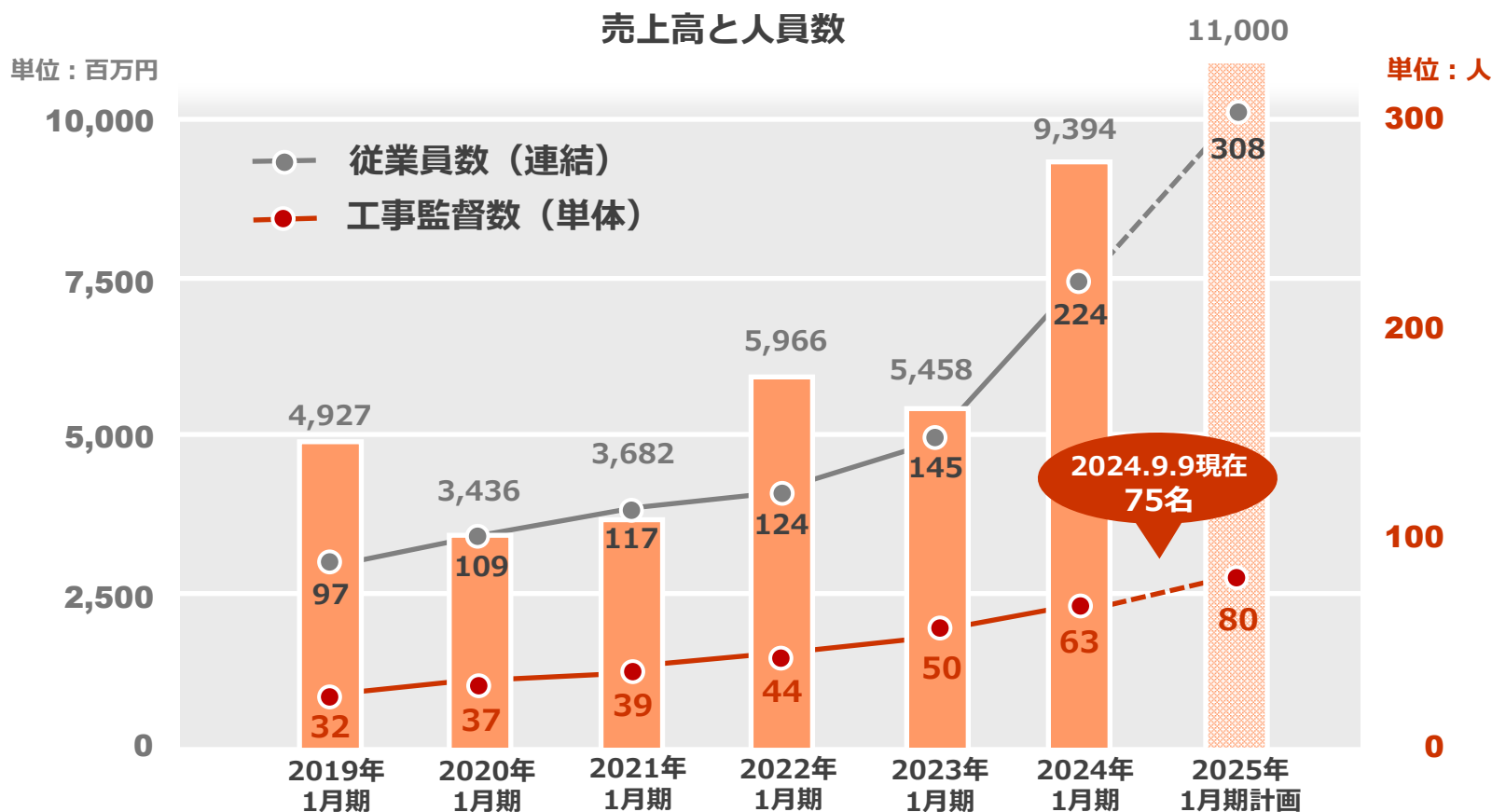
オダコーポレーションの子会社化に伴い販管費が増加しております。また、AI開発、ロボット開発などの研究開発費や、業務効率化のためのシステム費用への支出が増加しております。

単位：百万円

	2025年1月期 第2四半期	前年同期	前年同期比 増減額	前年同期比 増減率	主な増減要因
人件費	361	298	63	21.1%	人員増
研究開発費	35	0	35	—	AI開発プロジェクト、 ロボット開発、 AUSE機能開発
支払手数料 支払報酬	93	50	43	87.0%	システム費用・営業協力費
採用費	29	29	0	1.6%	広告媒体、紹介手数料
その他	227	153	74	48.4%	のれん償却等
合計	749	531	217	40.9%	オダコーポレーションの 子会社化による増減額： 約108百万円

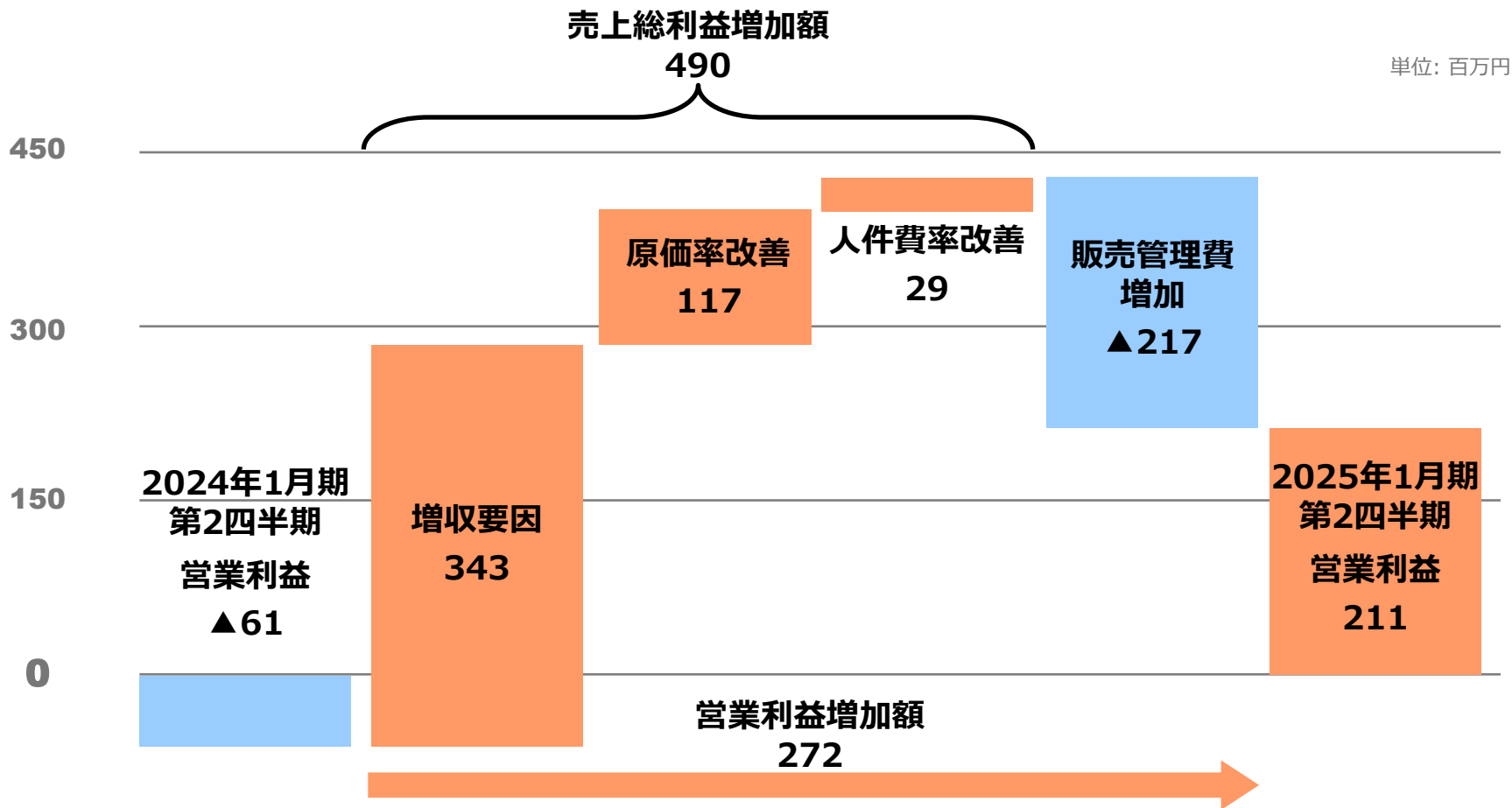
# 人員計画の進捗

発表日現在、工事監督数は、期首から12名純増（採用人数は16名）の75名となっております。工事の計画や施工管理をサポートする工事サポート部隊の増員により、さらなる売上規模拡大のための体制を引き続き強化いたします。



# 営業利益の増減要因分析：第2四半期（2025年1月期）

売上の増収効果に加え、第2四半期から不採算工事清算の影響が大幅に減少したことや、効率的な人員配置が売上総利益を押し上げて、販管費の増加を吸収した結果、大幅な増益となっております。下半期以降も安定した利益率で推移していく見込みです。



# 貸借対照表：第2四半期（2025年1月期）

単位：百万円

	2025年1月期 第2四半期	前連結会計年度末	対前年増減額	主な増減要因
流動資産	7,325	6,292	1,032	協力会社への支払いに備えた 現金預金の増加によるもの
(うち現金預金)	(2,194)	(1,444)	(750)	
固定資産	4,749	4,586	162	投資有価証券の評価替えに よるもの
流動負債	6,103	4,985	1,117	短期借入金の増加によるもの
固定負債	1,706	1,798	▲91	長期借入金の返済によるもの
純資産	4,264	4,095	169	投資有価証券の評価替え、 純利益の積み立てによるもの
総資産	12,074	10,879	1,195	
自己資本比率	35.3%	37.6%	—	
1株当たり純資産	480円	461円	—	

# 受注状況：第2四半期（2025年1月期）

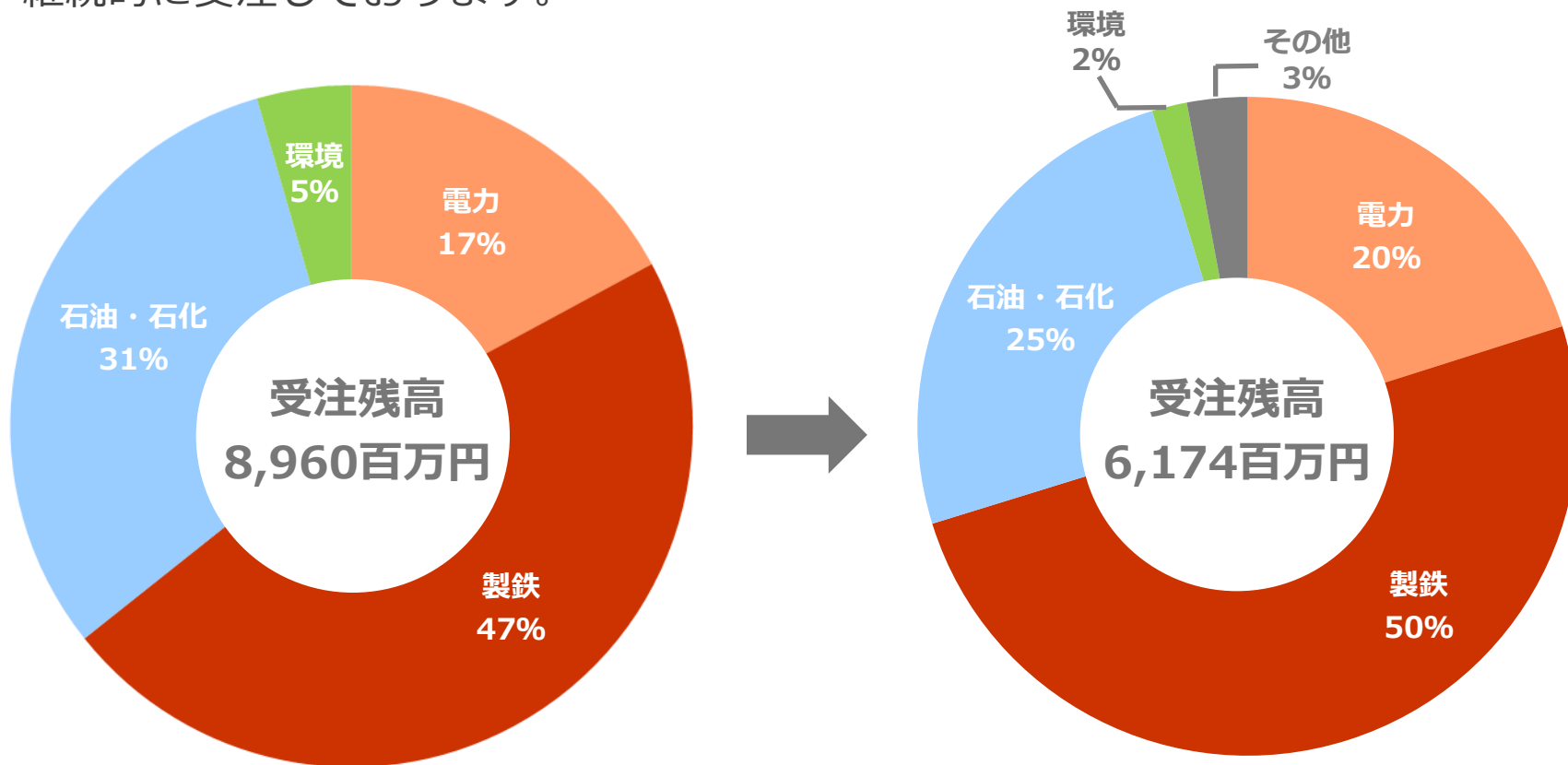
2025年1月期第2四半期の受注工事高は、長期大型案件を受注した前年同期と比較して減少しておりますが、引き合いの状況は業界を問わず極めて良好であります。順調な採用活動の結果、施工体制が強化され、潤沢な受注残高を消化する体制が整備されています。

単位：百万円

	2025年1月期 第2四半期	前年同期	対前年増減額	対前年増減率
期首繰越工事高	7,087	3,352	3,734	111.4%
受注工事高	4,710	8,822	▲4,112	▲46.6%
完成工事高	<b>過去 最高</b> 5,622	3,213	2,408	75.0%
期末繰越工事高 (受注残高)	6,174	8,960	▲2,785	▲31.1%

# 業界別 受注残高構成比率

前期の長期大型工事受注の影響で、受注残高に占める製鉄業界の比率が高くなって  
おります。前期からの大型工事が順調に進捗する中で、各分野ともに大型案件を  
継続的に受注しております。



2024年1月期 (第2四半期)

2025年1月期 (第2四半期)

# 業績予想（2025年1月期）

2025年1月期の業績予想は、株式売却益等を反映し、経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益について再度上方修正をしております。対前年比で営業利益は102.5%、親会社株主に帰属する当期純利益は107.7%の大幅増益の見込となっております。

単位: 百万円

	2025年1月期 業績予想	2024年1月期 実績	対前年増減率
売上高	11,000	9,394	17.1%
営業利益	500	246	102.5%
経常利益	650	407	59.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	480	231	107.7%
1株当たり当期純利益	54円	26円	—
ROE	10.6%	5.5%	—
1株当たり配当金	20円	20円	—
配当性向	36.9%	76.7%	—
DOE	3.7%	3.9%	—

※2024年9月5日付修正



# 各指標の推移

新しい受注体制の発足以後、安定した利益率の工事の受注ができる体制が整ってきております。「脱炭素アクションプラン2025（中期経営計画）」の最終年度である2026年1月期では、規模拡大によるスケールメリットが固定費用等を上回る収益を上げることで、収益体質は正常化される（ROE13%以上）見込みであります。

## 脱炭素アクションプラン2025

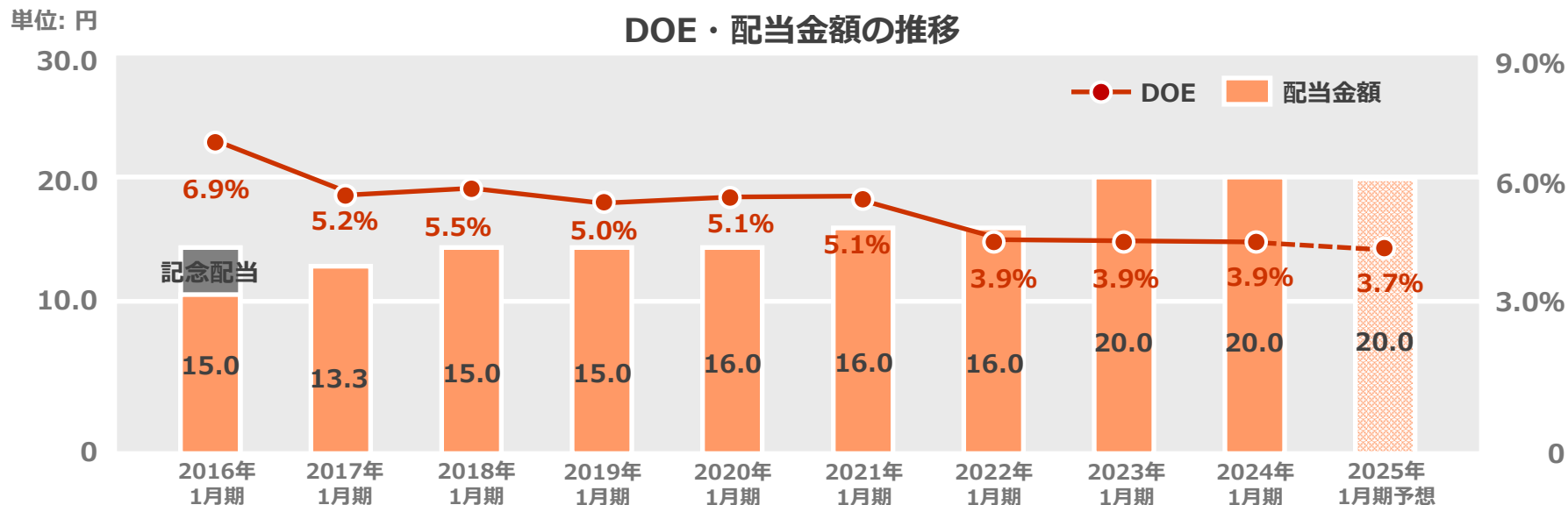
	2016年 1月期	2017年 1月期	2018年 1月期	2019年 1月期	2020年 1月期	2021年 1月期	2022年 1月期	2023年 1月期	2024年 1月期	2025年 1月期 計画	2026年 1月期 計画
売上高 百万円	3,846	4,182	4,496	4,927	3,436	3,682	5,966	5,458	9,394	<b>11,000</b>	<b>12,000</b>
営業利益 百万円	447	397	386	497	93	124	488	▲215	246	<b>500</b>	<b>1,200</b>
当期純利益 百万円	292	271	263	621	59	142	1,391	▲64	231	<b>480</b>	<b>880</b>
ROE %	18.4	12.8	11.7	23.8	2.3	5.6	40.6	▲1.5	5.5	<b>10.6</b>	<b>13.0</b>
PER 倍	24.0	67.6	65.9	18.7	163.4	96.2	7.7	—	39.2	—	—
PBR 倍	4.1	8.4	7.5	4.4	3.9	5.3	2.6	1.9	2.2	—	—
期末株価 円	1,030	2,220	2,089	1,407	1,191	1,668	1,269	916	1,023	—	—

# 配当方針（累進配当）

株主還元の一層の充実、並びに長期安定的に当社株式を保有して頂くことを目的に、当期より配当方針を変更し、累進配当を導入いたしました。

- ・より資本コストを意識した経営指標として、株主資本※を基準としたDOEを採用
- ・配当性向40%、DOE3.5%以上を目安とする（ROEは13%以上を目標）

※その他の資本の構成要素（有価証券評価差額、為替換算調整勘定 他）を除く。



※配当額は、株式分割後の金額で計算しております。（2016年2月1日に1：2、2017年2月1日に1：3の株式分割を実施）

# トピックス① 海外プラント解体市場への進出について

海外プラントへの解体ビジネス展開において、DENZAI株式会社との間で、戦略的パートナーシップ提携の契約締結について合意しました。両社相互協力のもと、海外のプラント市場の取り込みを強化し、さらなる事業拡大を目指します。



海外プラントへのビジネス展開

## DENZAIグループについて

日本国内最大級の重量物輸送・重機建設会社グループであり、DENZAI株式会社はグループの持株事業統括会社。日本各地にグループ会社11社、シンガポールに海外統括本社を構え、日本を含め世界13カ国（シンガポール・台湾・バングラデシュ・デンマーク・ベトナム・韓国・インド・UAE・タイ・フィリピン・サウジアラビア・アメリカ）に拠点を開設し、グローバルに事業を展開。



プライムムーバー（風車タワー輸送）



クレーン（洋上風車組み立て）



シンガポール本社

# トピックス② 脱炭素解体への取り組み

## ■ バイオ燃料

当社の解体工事現場では、ユーグレナ社のバイオ燃料「サステオ」を使用しています。解体工事におけるCO2排出量の削減が期待できます。



## ■ 水素溶断

水素溶断での主な排出物は水蒸気です。水素溶断を行うことにより、通常のコールドガス溶断に比べ、解体現場でのCO2排出量を減らすことが可能となります。(岩谷産業社との協業)



## ■ 全事業所にミライフ(株)が供給する実質再生可能エネルギー比率100%電力を導入

本社を含む全事務所において、実質再生可能エネルギー比率100%の電力への切り替えを開始いたしました。年間およそ55tのCO2排出量を削減できる見込みです。

## ■ 見積書での脱炭素率明示

AIの導入により見積作成の精度を高め、今後はCO2の削減率やリサイクル率を見積書に明示できるよう開発を進めています。

## ■ アスベスト廃棄袋

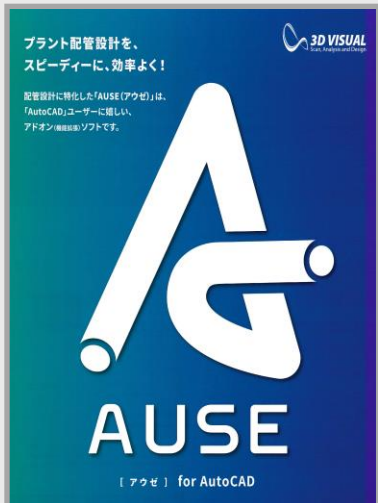
解体現場で発生したアスベストの回収に、廃プラスチックを100%利用して作られたリサイクル袋を使用しています。(販売実績…66,000枚 (7/31時点))



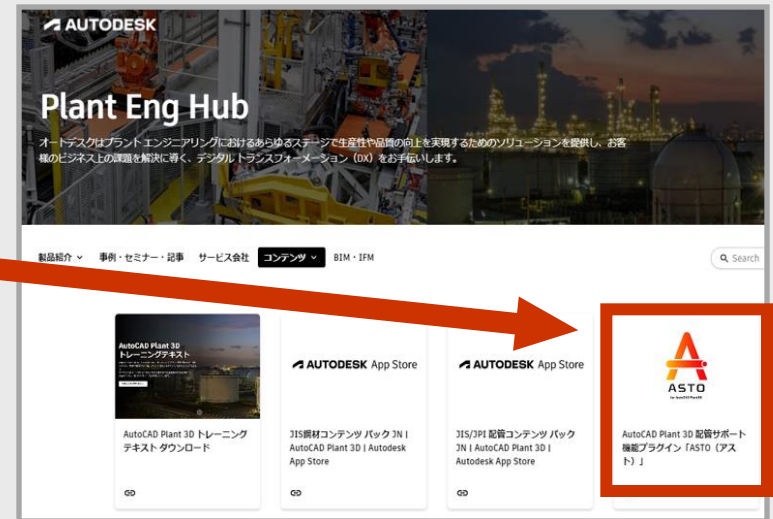
# トピックス③ CADアドオンソフトについて（子会社：3Dビジュアル社）



Autodesk社のAutoCAD Plant3D用アドオン「ASTO(アスト)」の正式版を2024年8月30日にリリース。  
AutoCADには無い配管サポート機能を実現。



「ASTO」が日本最大のプラント系ポータルサイト(Autodesk)に取り上げられました。



Autodesk社のAutoCAD用アドオン「AUSE(アウゼ)」は現在販売中。2DCADでの配管設計業務を簡素化。  
導入したお客様の8割以上が「満足」と回答。

# 本資料についてのご留意事項

---

- 本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている将来の予測等は現時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競合状況等、多くの不確実な要因を受けます。
- 本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控え下さいますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。
- 本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は当社に帰属します。

ベストセラ株式会社

